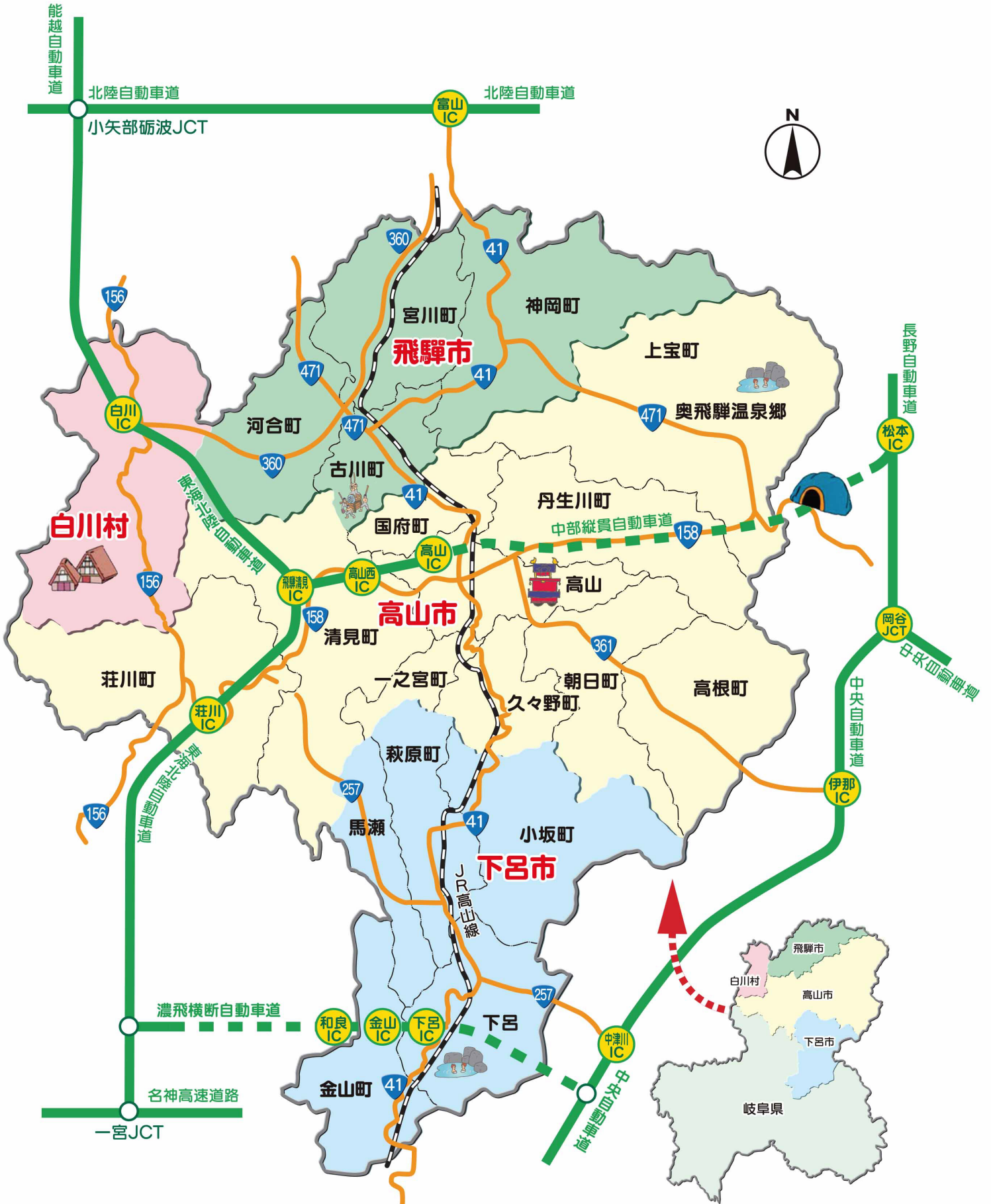


令和2年版

高山市の農業



高山市農政部農務課
高山市農業経営改善支援センター連絡会



位置・気象条件

位置と面積

高山市は岐阜県の北部、飛騨地方の中央に位置し、平成 17 年 2 月 1 日に周辺 9 町村と合併し日本一面積の大きい市となった。

中部圏と北陸圏を結ぶ JR 東海高山本線や国道 41 号と福井県福井市から長野県松本市を結ぶ国道 158 号の交差点にあり、名古屋市から 162 ㎞、岐阜市から 136 ㎞、富山市から 88 ㎞、松本市から 92 ㎞の地点にある。

自動車道は東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道や安房峠道路、権兵衛峠道路等により高速道路に連結し、大阪から約 4 時間、東京へ約 5 時間、金沢、名古屋へ約 2 時間でアクセスできる。

標高は 3,190 ㎞（奥穂高岳）から 436 ㎞（上宝町吉野）まで急峻な地形が多く山林が全面積の約 92% を占める。

- ・面積 東西約 81 ㎞ 南北約 55 ㎞ 2,177.61 平方㎞
- ・高山市役所本庁舎の位置 東経 137° 16" 北緯 36° 09" 標高 573 ㎞

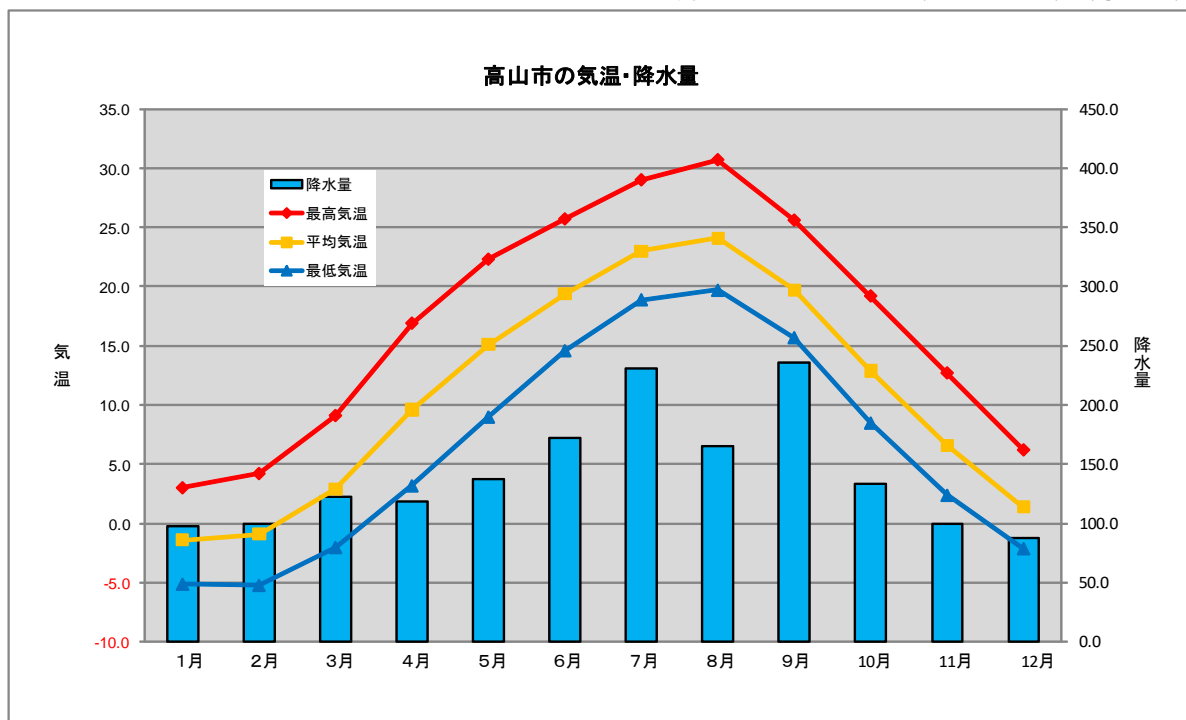
気象条件

内陸性気候で寒暖の差が大きく、特に夜間の冷え込みが厳しい。

年間平均気温 11.0℃ 年間降水量 1,699.5mm

夏日（最高 25℃ 以上）年間 104.3 日 冬日（最低 0℃ 以下）年間 117.7 日

気象庁データ 1981 年～2010 年 高山平年値



農家

農家戸数

高山市における専業農家率は13%、第1種兼業農家率は9%となっている。

総農家数	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家	自給的農家
4,112戸	533戸	388戸	1,521戸	1,670戸

2015年農林業センサス

認定農業者

高山市では平成7年度から農業経営改善計画の認定を進めており、認定農業者数は533経営体（令和2年4月現在、内法人79経営体）となり、岐阜県内で一番多い。

これら認定農業者の経営改善を進めるため高山市農業経営改善支援センターを設置し、効率的かつ安定的な農業経営の支援を行っている。

就農研修・新規就農者

高山市では平成21年度より「就農移住支援ネットワーク会議」を設置し、就農移住を推進しており、農業を目指す方の就農相談から就農研修、就農後のサポートまで総合的な支援を行っている。

【就農研修者】

年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
就農研修者	4	14	17	17	14	13	12	10	8	7
(内移住研修者)	3	8	6	7	6	5	3	3	2	2

【新規就農者】

年 度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
新規就農者	16	15	20	27	38	17	28	33	25	26
(内移住就農者)	1	1	5	2	5	2	4	3	1	3

農地

耕地面積

高山市の耕地面積は 4,600 ㌦で、その 66.5%が田である。
一戸当たり平均耕地面積は約 1.1 ㌦である。

田	3,060 ㌦
畑	1,550 ㌦
合計	4,600 ㌦

2019 年農水 HP（端数調整による合計不一致あり）

中山間地域等直接支払事業

高山市では 92 集落協定が締結され、1,257 ㌦の農地が対象になっている。
各集落では、農業・農村の持つ多面的機能を発揮させるため、棚田の保存、
地域環境の美化、昆虫類の保護などの活動を行っている。



多面的機能支払交付金事業

高山市では 72 地域で協定が締結され、2,864 ㌦の農地が対象になっている。
各集落では、地域住民が一体となって農村地域の資源（農地・農業用水・
ため池等）を保全（長寿命化）するための共同活動などを行っている。

農業生産

高山市の農業生産は、日本一の生産量を誇る「飛騨ホウレンソウ」を始め「飛騨トマト」など共同出荷される高冷地野菜が農業販売額の42.7%を占める。

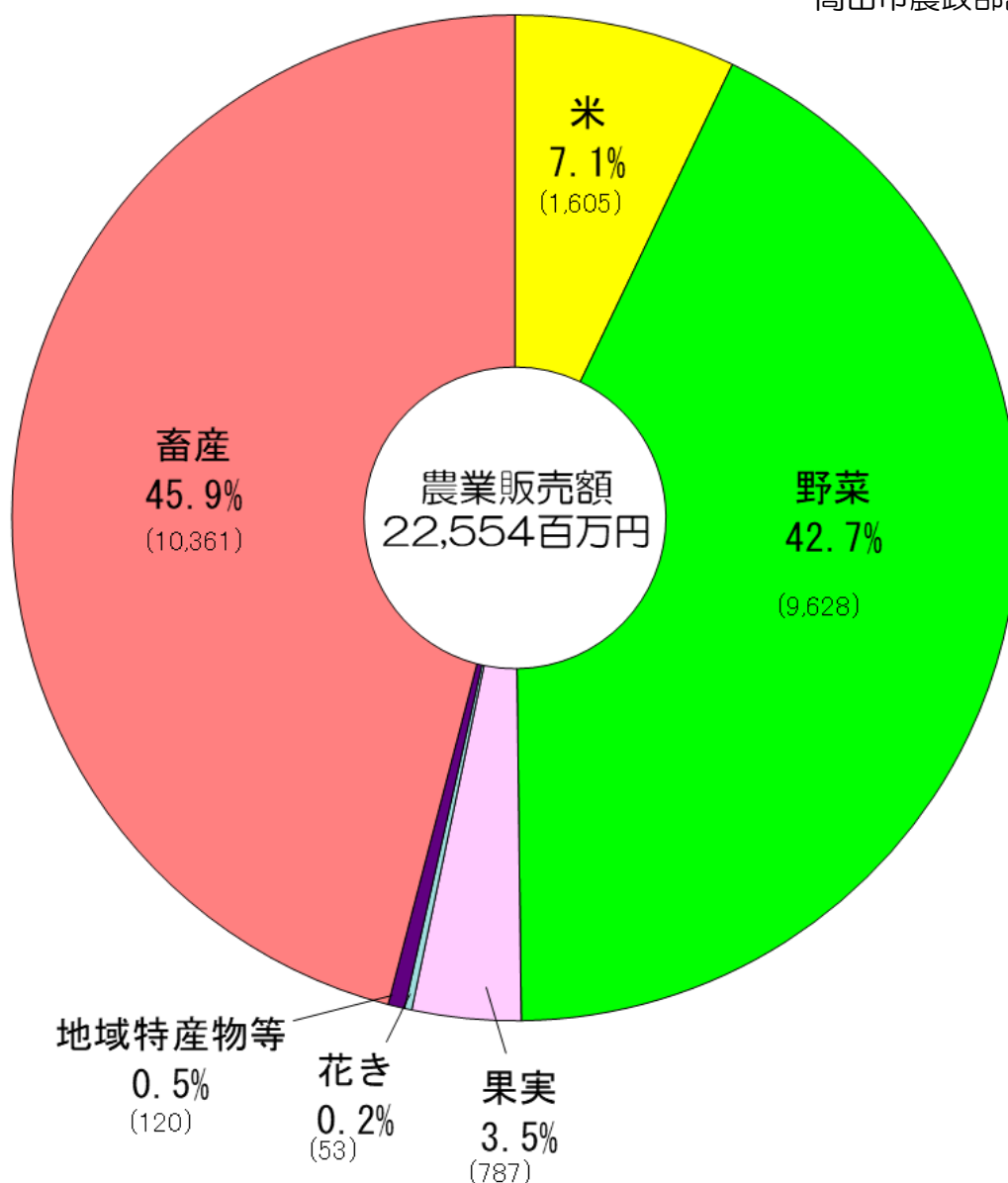
また「飛騨牛」として全国ブランドとなった肉用牛を始めとした畜産が約45.9%と近年伸びており、米は約7.1%である。

平成31年高山市の農業販売額

(単位：百万円)

合計	米	野菜	果実	花き	地域特産物等	畜産
22,554	1,605	9,628	787	53	120	10,361

高山市農政部調べ



高山市の農業販売額の推移(主要品目)

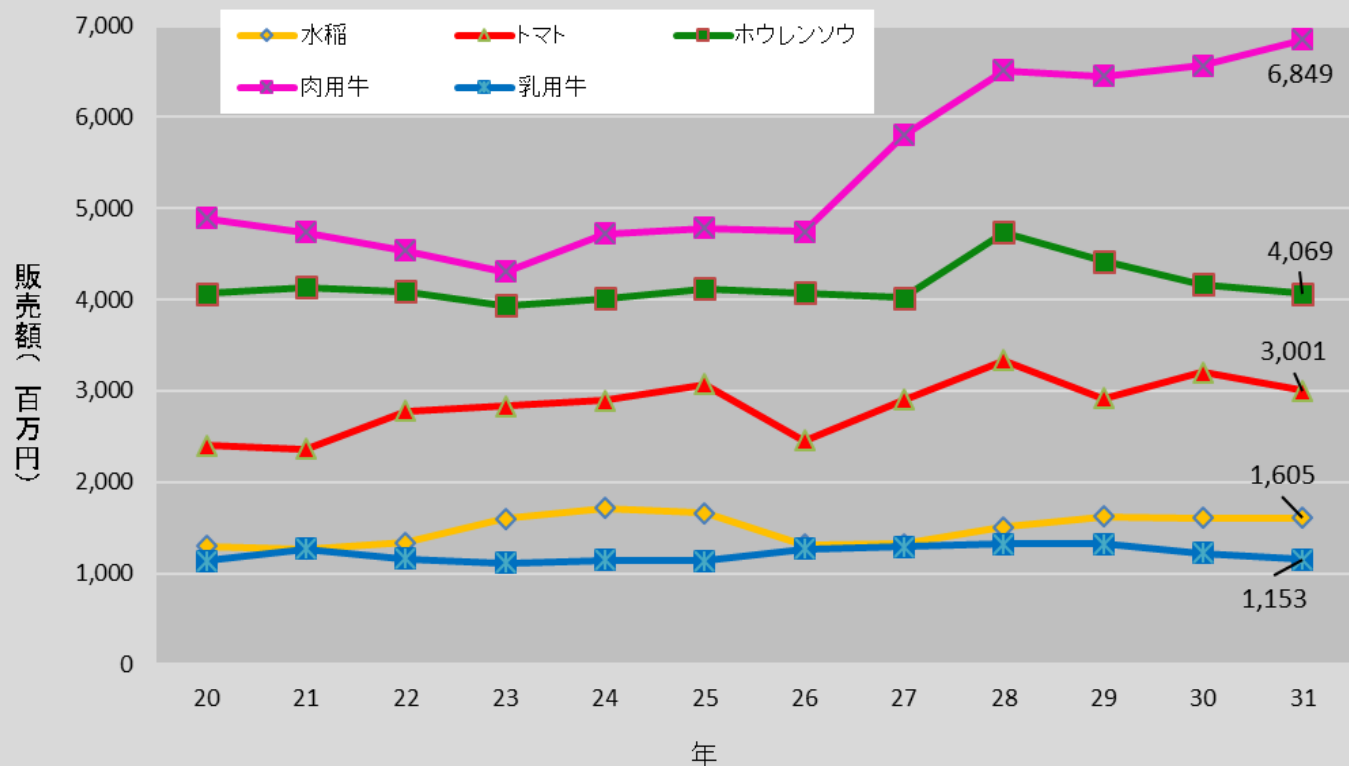
(単位：百万円)

品目	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31
水稲	1,299	1,272	1,339	1,602	1,715	1,664	1,318	1,323	1,505	1,625	1,607	1,605
トマト	2,403	2,360	2,783	2,832	2,893	3,076	2,452	2,905	3,336	2,917	3,200	3,001
ホウレンソウ	4,066	4,134	4,092	3,938	4,009	4,123	4,073	4,019	4,738	4,425	4,167	4,069
肉用牛	4,891	4,734	4,538	4,306	4,721	4,782	4,742	5,799	6,510	6,452	6,563	6,849
乳用牛	1,134	1,272	1,161	1,115	1,146	1,135	1,270	1,291	1,319	1,322	1,222	1,153

高山市農政部調べ

※トマト、ホウレンソウは JA 共同出荷額

農業販売額の推移(主要品目)



ホウレンソウ

産地の特徴

高山市では、高冷地の冷涼な気象条件を利用し、春から秋にかけてホウレンソウの栽培が盛んである。

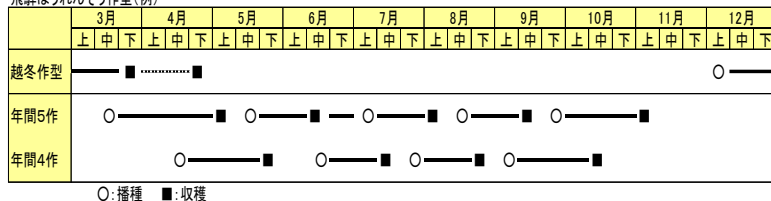
ホウレンソウの栽培は昭和 40 年頃から本格的に始まり、その後当地で開発された雨除け施設栽培（ビニールハウス）による技術の普及と水田転作によりその栽培面積が拡大しており、現在では延べ面積で約933ヘクタール栽培されている。

夏場は生育期間が1ヶ月ほどと短く年間5連作も可能であり、4月から11月まで連続して京阪神市場を中心に中京市場、京浜市場へ出荷されている。

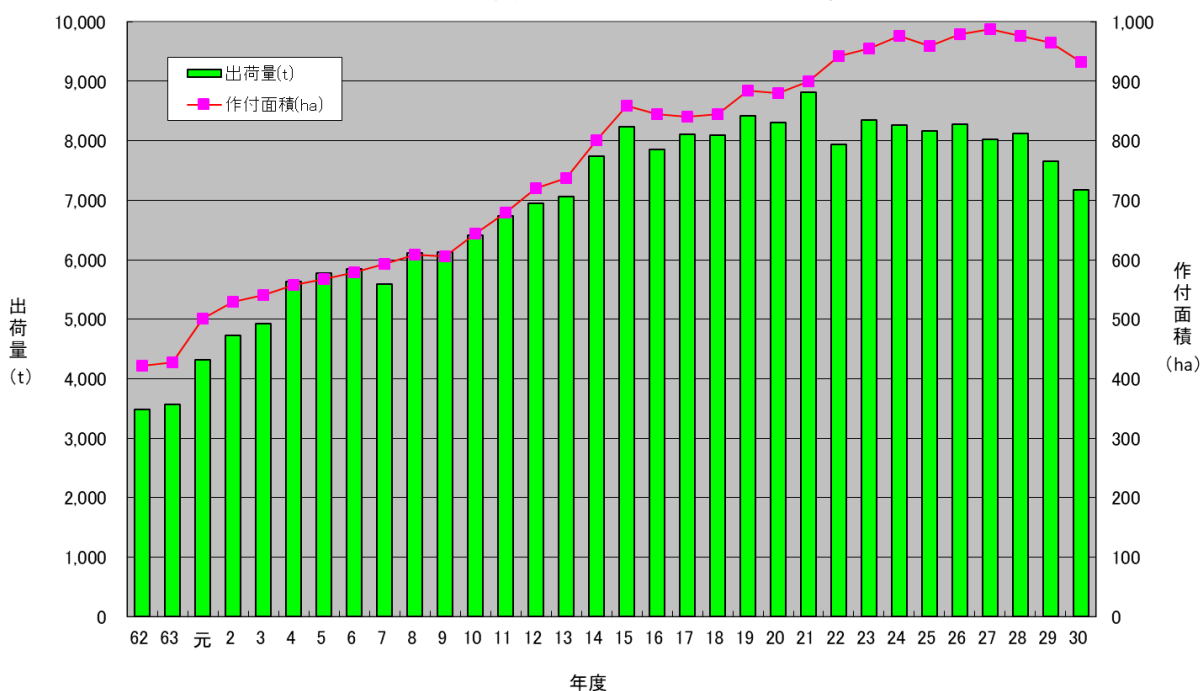
平成15年度からは化学肥料と化学合成農薬をそれぞれ従来より30%以上削減した栽培体系・ぎふクリーン農業(<http://www.gifu-clean.com>)を取り入れている。

ホウレンソウの年間の栽培体系

飛騨ほうれんそう作型(例)



年度別ホウレンソウの生産推移



トマト

産地の特徴

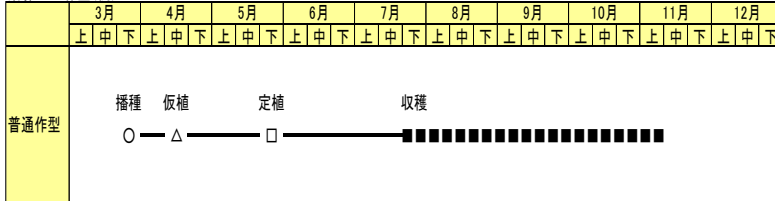
高冷地の自然条件を活かした雨除け施設栽培により 135ハクタール栽培され7月から 11 月まで出荷が行われている。栽培体系の統一と共同選果場の設置により品質の向上と均一化を図り、京阪神市場を中心に中京市場、京浜市場へ出荷され、飛騨地域全域での共同販売・共同計算を行っている。

また、安全で安心なトマト栽培への取り組みとして、ビニールハウスの周囲に防虫ネットを張り農薬の散布回数を減らすとともに、有機質肥料を使用して栽培している。

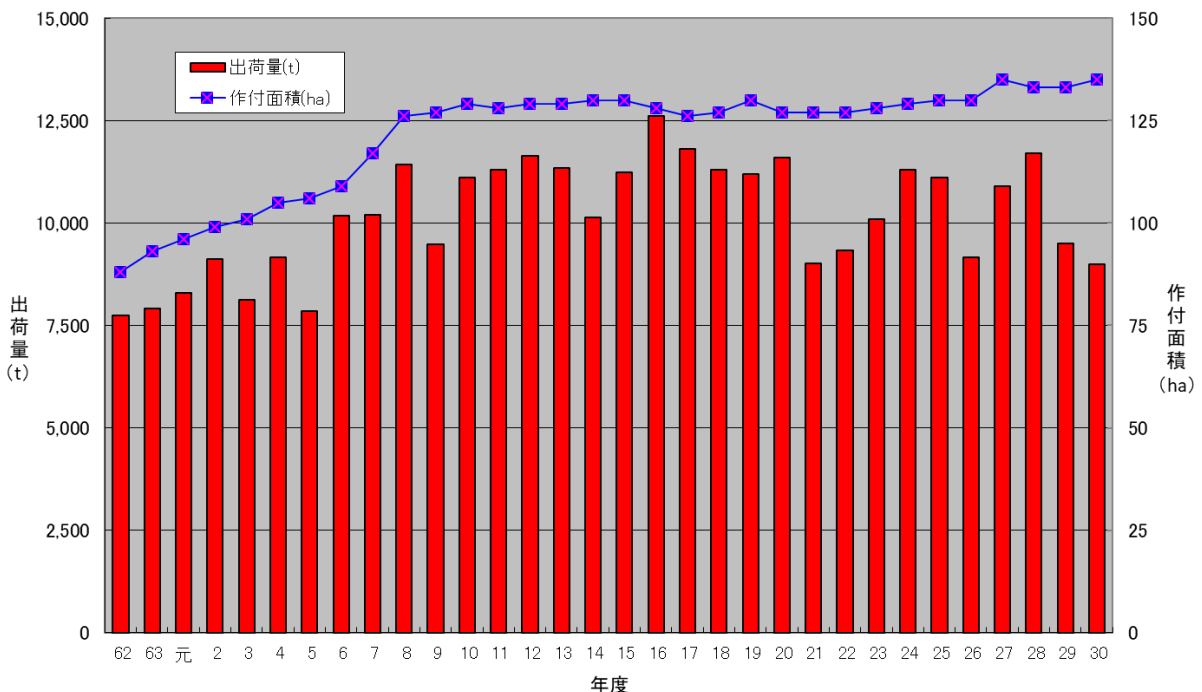
平成 14 年度からは化学肥料と化学合成農薬をそれぞれ従来より 30%以上削減した栽培体系・ぎふクリーン農業(<http://www.gifu-clean.com>)を取り入れている。また、共同選果場においては、出荷者ごとに毎日抜き取り 1 週間保存するなど安全、安心な生産に努めている。

トマトの栽培体系

飛騨トマト作型(例)



年度別トマトの生産推移



水稻

産地の特徴

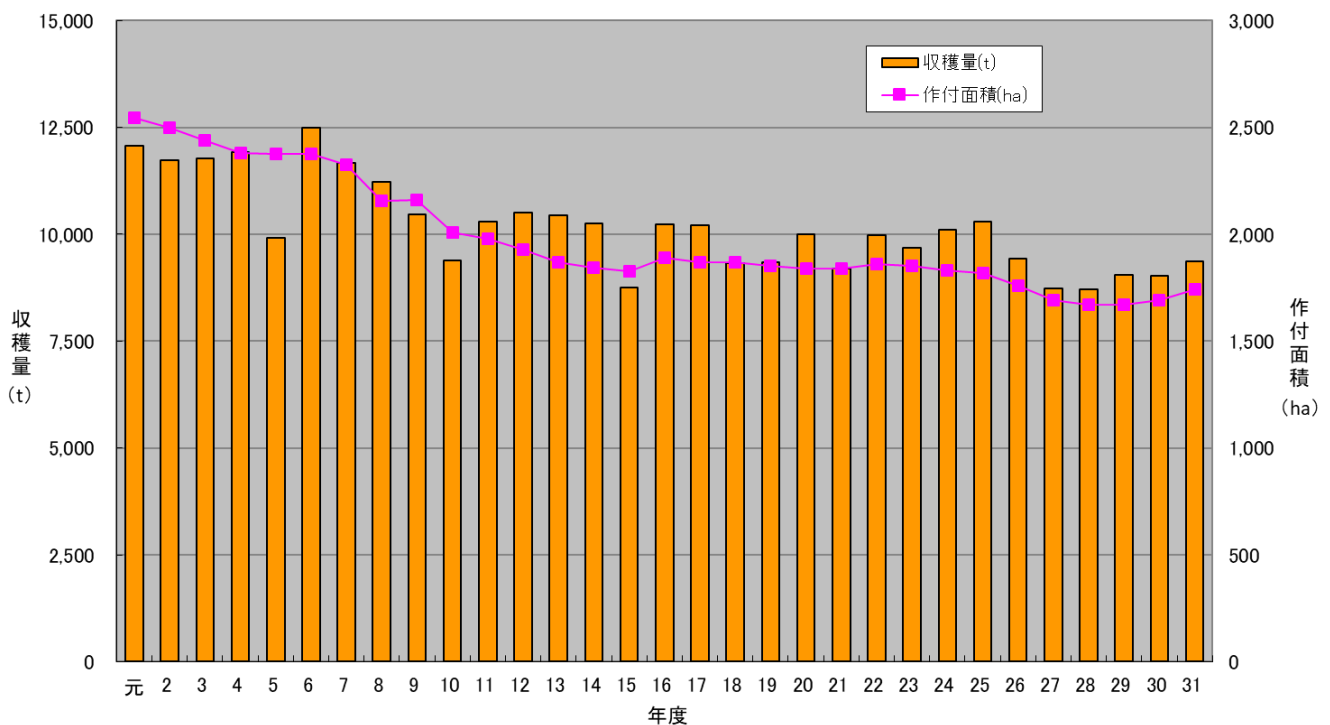
水稻は約 1,740 ㌦を栽培している。

主食用のうるち米として食味の良い「コシヒカリ」を中心に「ひとめぼれ」のほか、もち米の「たかやまもち」、酒米の「ひだほまれ」などを栽培している。

米の食味の良さは全国コンクールなどでも高く評価され、平成 25 年から「飛騨高山おいしいお米プロジェクト」を立ち上げ、食味の良い米の生産と観光との連携による「飛騨産米」のブランド化を推進している。



年度別水稻の生産推移



肉用牛

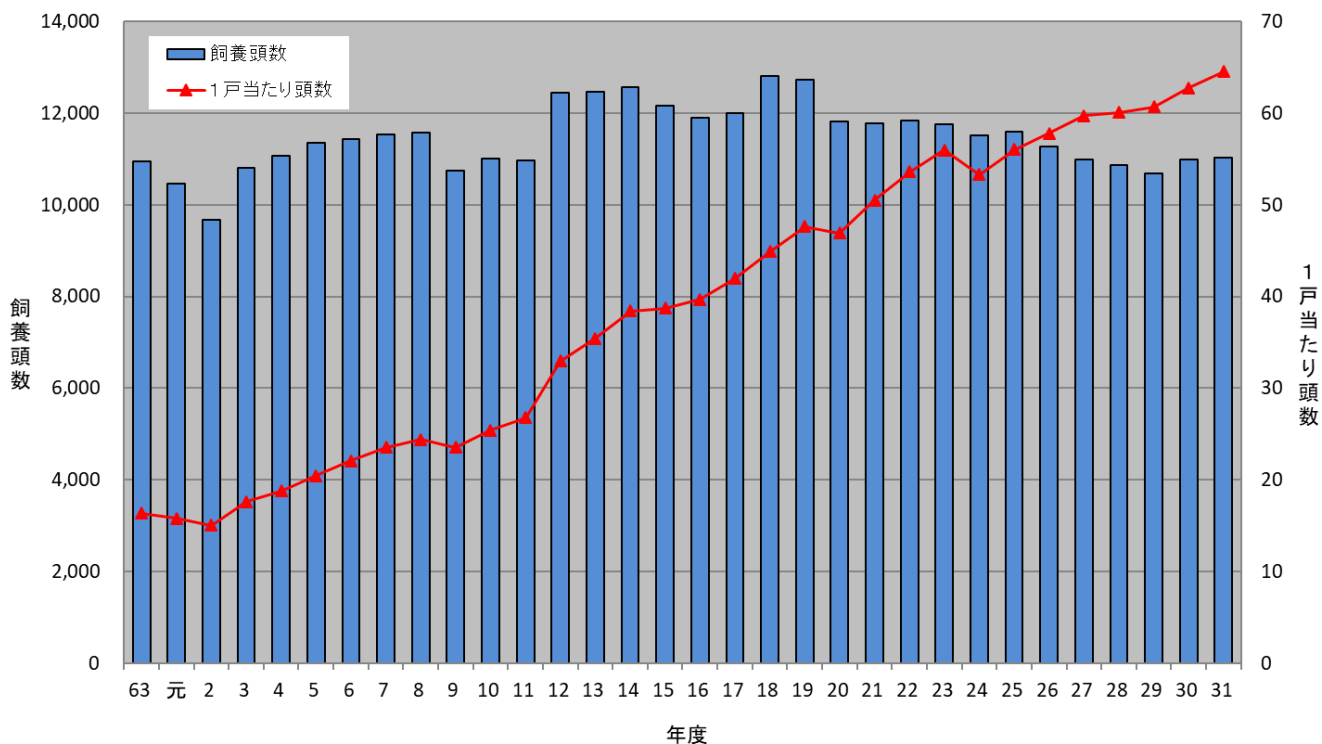
産地の特徴

高山市では、171戸の繁殖・肥育農家により11,030頭の肉用牛が飼育されている。子牛を生産する繁殖牛は、夏山冬里方式により春から秋の期間は自然環境豊かな牧場に放牧され、牛の健康増進と生産コスト低減が図られている。

「安福号」の系統を引き継いだ長年の種雄牛づくりと飼育技術の向上により、「飛騨牛」ブランドが確立されてきた。食肉センターで処理加工された枝肉は、海外へも出荷されている。



年度別の肉用牛飼養頭数の推移



乳用牛

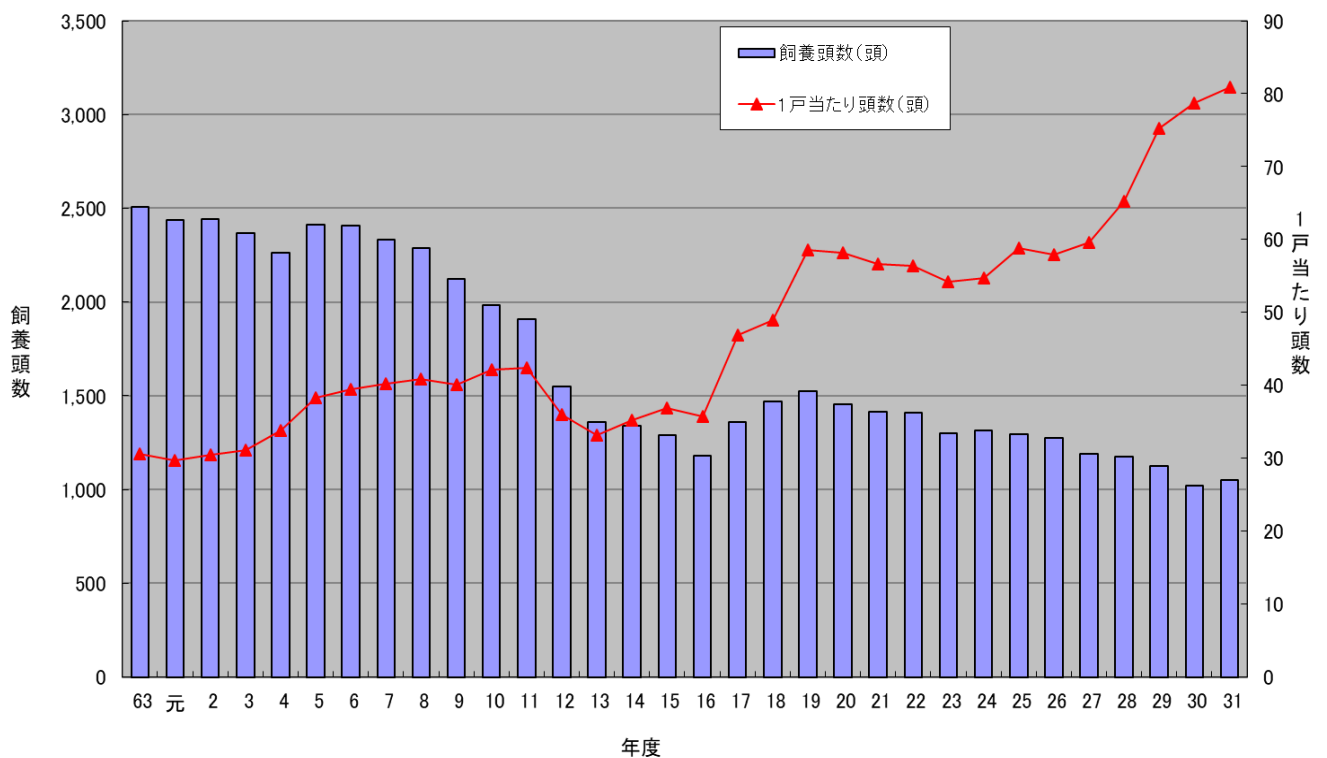
産地の特徴

高山市では、13戸の農家により1,052頭の乳牛が飼育され、年間約8,678トンの生乳が生産されている。

自然豊かな飛騨の地で生産された生乳は、その日のうちに処理加工され、新鮮な製品が消費者へ届けられている。



年度別乳用牛の飼養頭数の推移



林業

森林の現況

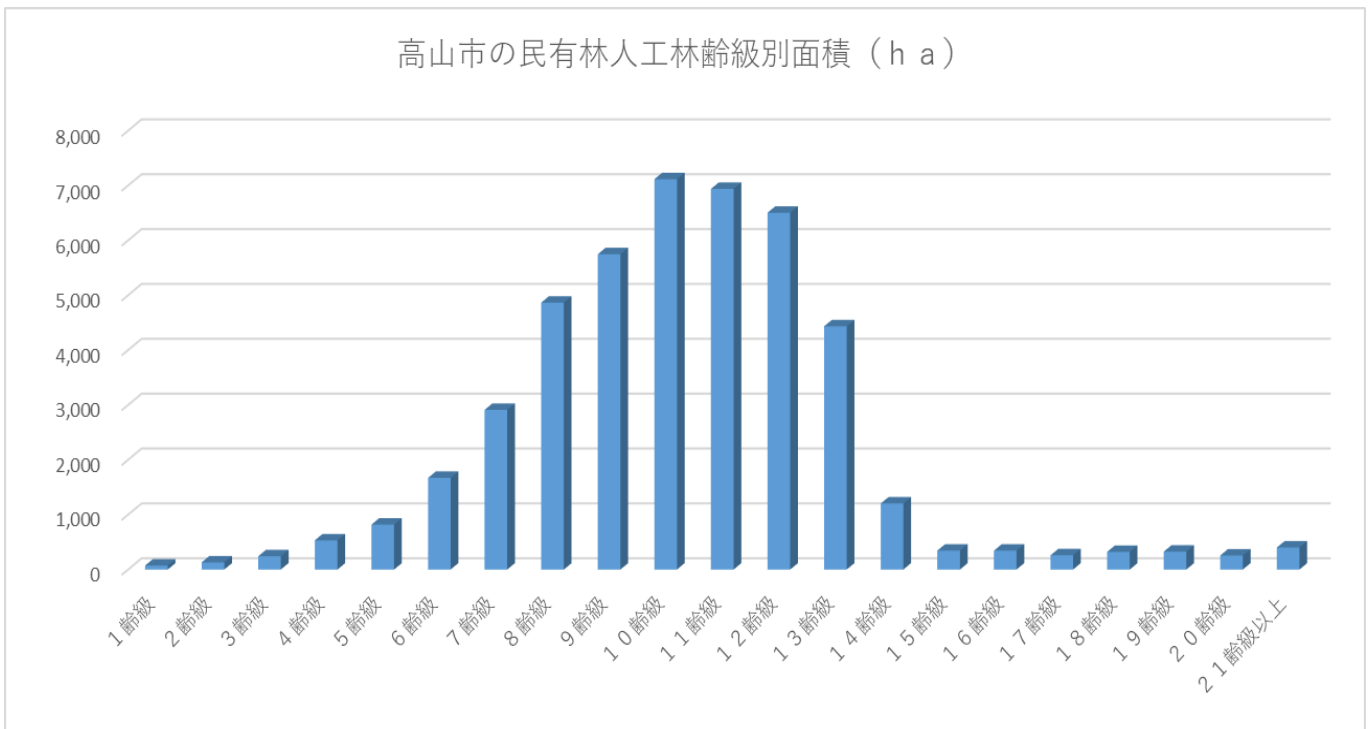
高山市の森林面積は 200,531ha で市域全体の 92.1%を占めている。このうち国有林は 80,843ha と市域森林の 40.3%を占めている。

民有林は 119,688ha で、そのうちスギやヒノキなどの人工林は 45,440ha と 38.0%を占めている。また、このうち間伐を必要とする林齢 11 年生～45 年生（3 齢級～9 齢級）の森林は 16,788ha と民有林人工林の 36.9%を占めており、適切な間伐の実施が課題となっている。

高山市の所有形態別の森林の面積(平成 30 年度版 岐阜県森林・林業統計書)

市域 面積 (ha)	森林面積				
		国有林		民有林	
		(ha)	(ha)	(ha)	うち人工林 (ha)
217,761	200,531	80,843	119,688	45,440	38.0

高山市の民有林人工林齢級別面積 (h a)

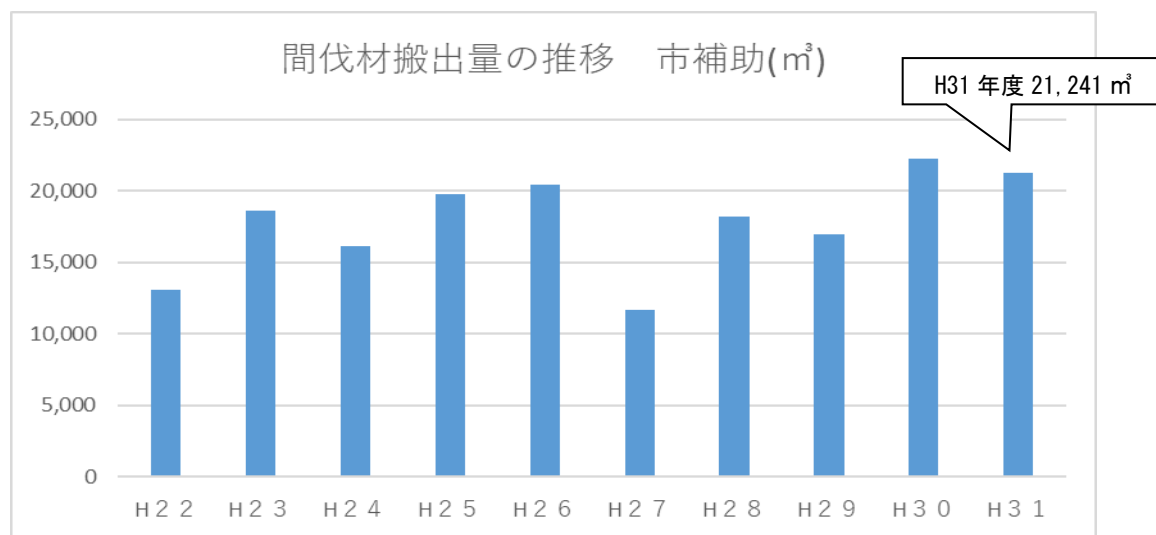
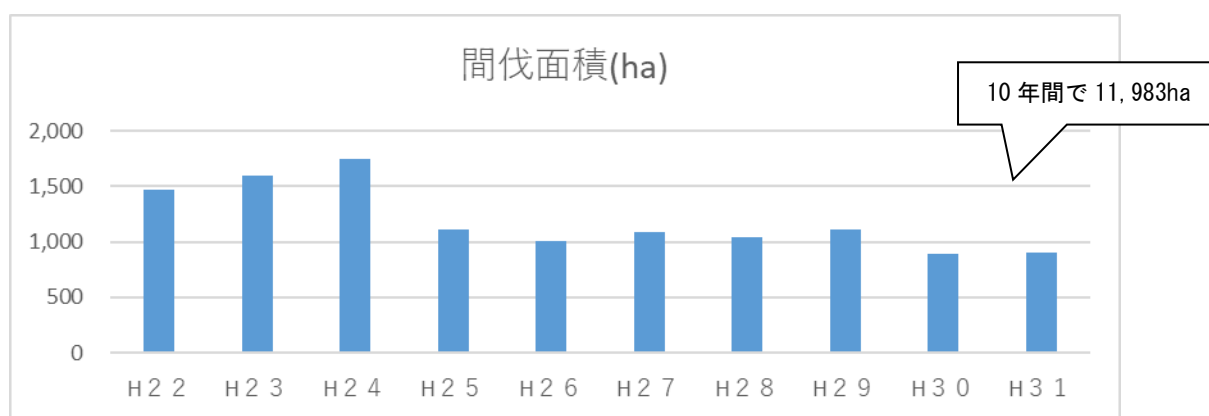


森林整備の状況

間伐及び間伐材の利用

平成22年度から平成31年度までの10年間の間伐実績は11,983haと、対象となる森林の約71%となっている。

また、間伐材が利用されず森林内に放置されることが多く、資源の有効利用の観点から間伐材の利用拡大が課題となっている。市補助事業（緑の保全事業）を活用した間伐材搬出量は平成31年度21,241 m³となっている。



地域特産物

飛騨紅かぶ

飛騨を代表する漬物「赤かぶ漬け」の原料として栽培されている。



飛騨ねぎ

寒い冬を越し1年間じっくりと育てられており、皮がやわらかくあまみがある。



きんしょう 菌床しいたけ

「飛騨やまっこ」の愛称で親しまれ、農家の冬場の仕事として栽培されている。



飛騨メロン

アールスメロン系のマスクメロンで、あまくてとてもおいしい。



あきしまささげ

まだら模様が特徴のインゲンマメの在来種で、夏まき秋どり栽培されている。



すくな 宿儺かぼちゃ

ヘチマに似た形をしたかぼちゃで、食味が良い。主に丹生川町で栽培されている。



夏ダイコン

高冷地の寒暖の差により、きめが細かくみずみずしい。



タカネコーン

高根町の高原で栽培されるトウモロコシで、とてもあまくておいしい。



飛驒リンゴ

涼しい気候を利用して栽培されており糖度が高く好評である。



飛驒もも

寒暖の差により糖度が高くておいしく日もちも良い。



山ブドウ

山奥に自生していた山ブドウを採取し畑で栽培している。収穫された山ブドウはワインやジュース等に加工されている。



トルコギキョウ

「飛驒の雪姫」は、良質な白いトルコギキョウで、秋にすばらしい八重咲きとなる。



キク

夏の中輪キクが中心で、特に「ひたこがね飛驒黄金」は市場での評価が高い。



たかはらさんしょう 高原山椒

香辛料の材料として上宝・奥飛驒温泉郷地域で栽培され、その香りと品質は高く評価されている。



ソバ

高冷地の特質を生かして栽培され質が良く「飛驒そば」として賞味されている。



えごま

五平餅のたれなどに利用され、飛驒地域の伝統食として欠かせない食材である。



× 毛

Handwriting practice lines consisting of 18 horizontal dashed lines.

高山市農政部農務課

〒506-8555

岐阜県高山市花岡町 2 丁目 18 番地

TEL(0577)35-3141 FAX(0577)35-3166
